

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	延長保育促進事業(民間保育所)	会計	一般会計	事業No.	169	施策順No.	37-015
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-2-5-11-2		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	子育て支援課		
施策	37 子どもを産み育てやすい環境の充実	事業期間	開始	7	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・民間保育所及び入所児童(保護者)。 具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	民間保育所数(ヶ所)	14	14	14	15		
		民間保育所入所児童数(人)	1578	1569	1554	1824		
	意図	・多様な勤務形態の保護者ニーズに対応するため、保育所を11時間以上開所させる。 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	
対象をどう変えるか	延長保育事業補助金の交付を受けている民間保育所数/民間保育所数(%)	100	100	100	100	100		A
	延長保育利用児童数/延長保育利用希望延べ保護者数(%)	100	100	100	100	100		
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		早朝保育、延長保育とも保育ニーズがあり、延長保育の実施によって民間保育所を選択する保護者も多い。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の利便性向上を図るため、保護者の要請に弾力的に対応できるよう保育所の自主的な取り組みにより保育時間の延長を行う国庫補助事業。</li> <li>この事業は、11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応する場合に必要な担当保育士の人件費を補助する。</li> <li>11時間以上開所していると基本分を補助し、さらに、30分、1時間、2時間と開所時間が増えることに補助の加算をするもの。</li> <li>この事業により、様々な職種の保護者の保育ニーズに対応した子育て支援ができる。</li> <li>なお、平成17年度から国庫直接補助であった長時間延長促進事業(2時間以上の延長保育を実施して平均利用児童数が多い場合に該当)が延長保育促進事業と統合される。</li> <li>平成17年度からは、新制度が創設され、次世代育成支援対策交付金の1事業となった。これにより、これまで市の負担が4分の1から2分の1に変更された。</li> <li>平成22年度より保育対策促進事業に移行し、負担は国・県・市で1/3ずつに変更された。</li> </ul>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>名称</th> <th>活動量・単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応した民間保育所の延長保育担当保育士の人件費を補助。</td> <td>11時間30分開所園 12時間開所園 13時間開所園</td> <td>10園 4園 1園</td> </tr> <tr> <td>・11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応した民間保育所の延長保育担当保育士の人件費を補助。                      &lt;基本分&gt; 4,600,000円                      &lt;加算分&gt; 30分延長 300,000円                      1時間延長 1,400,000円                      2時間延長 2,200,000円</td> <td>11時間30分開所園 12時間開所園 13時間開所園</td> <td>8園 5園 2園</td> </tr> </tbody> </table>	事業内容	名称	活動量・単位	・11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応した民間保育所の延長保育担当保育士の人件費を補助。	11時間30分開所園 12時間開所園 13時間開所園	10園 4園 1園	・11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応した民間保育所の延長保育担当保育士の人件費を補助。 <基本分> 4,600,000円 <加算分> 30分延長 300,000円 1時間延長 1,400,000円 2時間延長 2,200,000円	11時間30分開所園 12時間開所園 13時間開所園	8園 5園 2園
事業内容	名称	活動量・単位								
・11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応した民間保育所の延長保育担当保育士の人件費を補助。	11時間30分開所園 12時間開所園 13時間開所園	10園 4園 1園								
・11時間以上保育所を開所し、早朝や夕方の保育ニーズに対応した民間保育所の延長保育担当保育士の人件費を補助。 <基本分> 4,600,000円 <加算分> 30分延長 300,000円 1時間延長 1,400,000円 2時間延長 2,200,000円	11時間30分開所園 12時間開所園 13時間開所園	8園 5園 2園								

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)延長保育促進事業補助金(国1/3、県1/3) 45,808千円 + 加算分 5,533千円
		県支出金	54,466	51,341	55,200	
		起債				
		その他				
	一般財源		27,234	25,672	27,600	
	計(A)		81,700	77,013	82,800	
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B			77,013		

4 事業に対する市民や議会の意見

・延長保育の希望は年々増加している中、延長保育を実施しているのは全保育所36園のうち民間保育所全13園と公立保育所5園(さらに補助対象にならないが延長保育を実施している保育所は公立4園)であるため、近くの保育所で延長保育が利用できず、離れた保育所などに入所させなければならないケースがあり、延長保育の全園展開を望む声がある。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	子どもを育てやすい社会環境の充実	施策の成果指標又はムトス指標	子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	就労等により、通常保育時間である朝8時から夕方4時では保育時間が不十分である家庭にとって、延長保育の実施は不可欠である。民間保育所全園の11時間以上の開所に補助金を交付し、延長保育の運営を補助することは長時間保育を要する家庭の子育てを支援することにつながる。		
	後期に向けた課題	民間保育所は全園で11時間以上の開所時間を設定し、早朝・延長の両時間に対応していることから特に常勤で一日の大半を就労している家庭にとって、利便性が高い。引き続き実績に基づいて補助を行う必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	基本開所時間の11時間に加え、加算延長時間の実績に応じて加算補助金を交付している。より長時間の延長保育の実施の実績がある保育園は人件費等のコストの面から、より高い加算補助単価を交付して支援している。		
	後期に向けた課題	今後も延長保育のニーズは高く、民間保育所全園の延長保育の実施はワークライフバランスに寄与するものと考えられる。しかし、地区によっては延長保育の利用実績がなくなり、補助対象から外れる可能性もあるため、対策が必要になる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	事業費は全て補助金であり、削減すべきコストはない。		
	後期に向けた課題	事業費は全て補助金であり、削減すべきコストはない。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	本事業は市が補助金を交付するため関与は適切である。		
	後期に向けた課題	本事業は市が補助金を交付するため関与は適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	事業主体は市であり、民間保育所が11時間以上の延長保育を実施する際の人件費を補助することで、受入体制の整備を促している。ひいては延長保育を望む家庭の子育てを支援することにつながる。市は園長会を通じて補助金の案内をし、実績に基づいて適切に補助金を交付している。		
	後期に向けた課題	延長保育のニーズは高く、公立保育園では9園のみが延長保育を実施していることから、民間保育所の延長保育サービスは飯田市の保育サービスの要となる。引き続き円滑な交付を行い、補助する必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	保護者にとっていまや延長保育の有無は保育所選択の必須項目である。公立保育所に比較して民間保育所の延長保育時間のほうが長時間であることから、民間保育所を選択する保護者も多い。保護者のワークライフバランスに大きく寄与していることがうかがえる。		
	後期に向けた課題	これまでの実績より今後も延長保育の需要は高くあると見込まれる。しかし、児童数の少ない地区では延長保育の利用実績がなくなる可能性もあり、安定した運営に支障をきたすことが考えられるので、対策を考える必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------